

## 令和2年度 中村中学校働き方改善プラン

### ◇学校が担っている業務と中村中学校の改革の方向性

\*中教審の答申参照

- 1 見回り（補導・逮捕時の対応） → 必要に応じて継続
- 2 学校集金 → 当面は継続（市教委で今後検討するとの回答）
- 3 地域連携（連絡調整） → 継続（生涯学習の視点）
- 4 調査・統計への回答 → 不要なものは無回答
- 5 休み時間の対応 → 継続
- 6 清掃 → 一隅清掃継続
- 7 部活動 → 改善（運営規程）
- 8 給食指導 → 継続
- 9 学習指導・教材研究 → 改善
- 10 家庭学習指導 → 改善
- 11 成績処理と学習等評価 → 校務支援システムで改善
- 12 学校行事の準備・運営（分掌等） → 公平分配と協働
- 13 進路指導 → 改善（継続）
- 14 支援が必要な生徒・家庭への対応 → 改善（継続）
- 15 会議や部会 → 精選と時短

#### 今後の課題

- ・行事の見直し
- ・保護者会、二者・三者面談、家庭訪問 等々、改善策の検討

県教育委員会・真岡市教育委員会が示す「働き方改革推進プラン」

○時間外勤務時間 1日：2時間15分 1ヶ月：上限45時間

○1ヶ月の時間外勤務 80時間の教員 0%（2021年度まで）

### ◇中村中学校働き方改善プラン ～「学校における働き方改革推進プラン」を受けて～

#### 1 目的

- ・勤務時間の適正化を図る。
- ・教えるべき事を明確にし、本来の校務に集中する。

#### 2 勤務時間の適正化と休暇等の適正取得

- (1) 教職員の出・退勤時刻の把握・記録の徹底（継続） \* 勤怠管理入力 of 習慣化
- (2) 最終退勤時刻の設定と厳守・20:00時施錠 \* 毎週水曜日は18:00施錠
- (3) 長期休業中の日直を置かない日の設定 【R2:8/11～8/14、12/28】

#### 3 意識改革

##### (1) 発想の転換

- ・「退勤時刻を決めて、その時刻に間に合うように業務を精選・効率化する」という発想に転換する。

##### (2) 「業務の適正化」という意識の徹底

- ・「必須の業務」でないものについては、積極的に削減や簡素化を図る。
- ・教職員自身が「何の目的で何をするのか」を徹底する。

#### 4 業務改善

- (1) 経営方針の明確化・・・校長努力（何をどうするのかを明確に）
- (2) 校務分掌の改善・・・明確化とスリム化、均等化
- (3) 予算執行管理の徹底とコスト意識高揚（修学旅行・教材等々）
- (4) 情報一元化の徹底
  - ・鈴木校務支援ソフトウェア全機能を有効活用
  - ・サーバのフォルダ整理（誰でもデータ保存先が探せる工夫）
  - ・文書作成は Word、Excel で統一（一太郎は個人処理のみ）
  - ・学年経営は、Excel ファイル「学年経営」に必要事項記載
  - ・教科経営録の廃止・・・校務支援と学校経営概要、年計、週案で対応
- (5) 地域・保護者・関係機関との連携・・・多様な教育を創造していく。
- (6) 共有の場の設定・・・経営委員会—学年部会のラインで意志の疎通と徹底報告、連絡、相談の習慣化
- (7) 自己 PDS の実践

#### 5 部活動指導の適正化

中村中学校部活動運営規程の厳守

#### 6 学校運営体制の充実

- (1) 目標や方針の明確化
- (2) 組織マネジメントの実施・・・経営委員会 — 学年部会のライン
- (3) 地域との連携 R2：地域コーディネーター設置
- (4) 職場環境づくり
  - ・互いに支え合う明確な意志と態度、協働する雰囲気醸成
  - ・教職員一人一人の事情に配慮した休暇を取得しやすい雰囲気醸成
- (5) 経営委員会、職員会議の時短徹底
  - ・経営委員会の役割の明確化・・・決定機関
- (6) 給食費集金業務の行政への移行（継続要望）
- (7) 職員室電話対応・・・留守番電話機能の利用

#### 7 その他

- (1) 検定試験の全廃 — 情報の提供
- (2) 高校入試対応のさらなるスリム化・・・特に3学年の事務効率化
- (3) 不登校対策の見直し
- (4) 学校概要の内容精選とスリム化
- (5) 定期テスト、復習確認プリントの有効な実施
- (6) 復習確認テストの朝実施の全廃（7校時に実施は可）
- (7) 学年集金、副教材等のコスト見直し
- (8) 学級通信の廃止（継続）・・・「学年だより」に統一
- (9) 学級担任制の改善・・・ローテーション担任による学年体制での担任業務